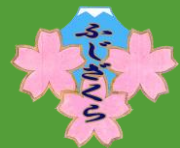


令和4・5年度 校内研究

『社会の中で自分らしく豊かに
生きていく力を育てる授業実践』

～指導と評価の一体化及び授業の充実～



山梨県立ふじざくら支援学校

学習指導要領に関して

●現行学習指導要領に関して

- ☑教育的ニーズや指導目標、内容等の共有と社会との連携・協働を推進する教育課程
- ☑主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- ☑特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立

●知的障害特別支援学校における教育内容の改善

☑学びの連続性の重視

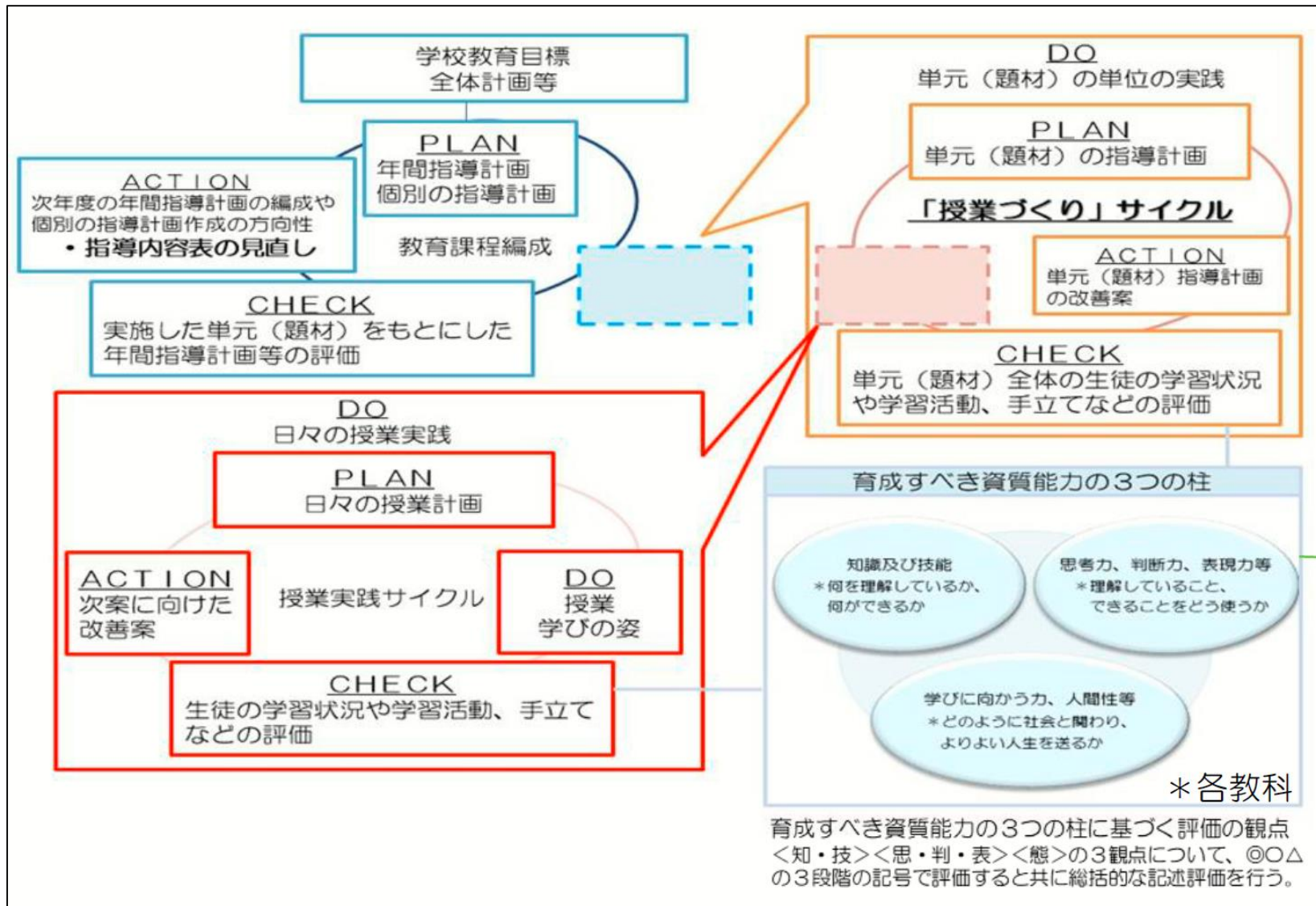
☑一人一人に応じた指導の充実

☑自立と社会参加に向けた教育の充実

●知的障害特別支援学校における資質・能力を育む評価の考え方

- ☑カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価
- ☑主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

●教育課程のPDCAと授業のPDCAをつなぐ



研究主題の設定理由

●テーマ設定の理由①

・令和2、3年度 校内研究の成果と課題

成 果	課 題
<p>・指標などの活用を含む児童生徒の実態把握、それを基にした<u>個々に応じた目標設定や指導内容の選定</u>ができた。</p>	<p>・活動の大きなまとまり（単元）における<u>評価規準</u>の曖昧さ（不明確さ）</p> <p>・授業実践において、「生きる力」を育むために必要な個に応じた「手立て」の工夫の必要性＝<u>評価基準</u>の設定</p>

●テーマ設定の理由②

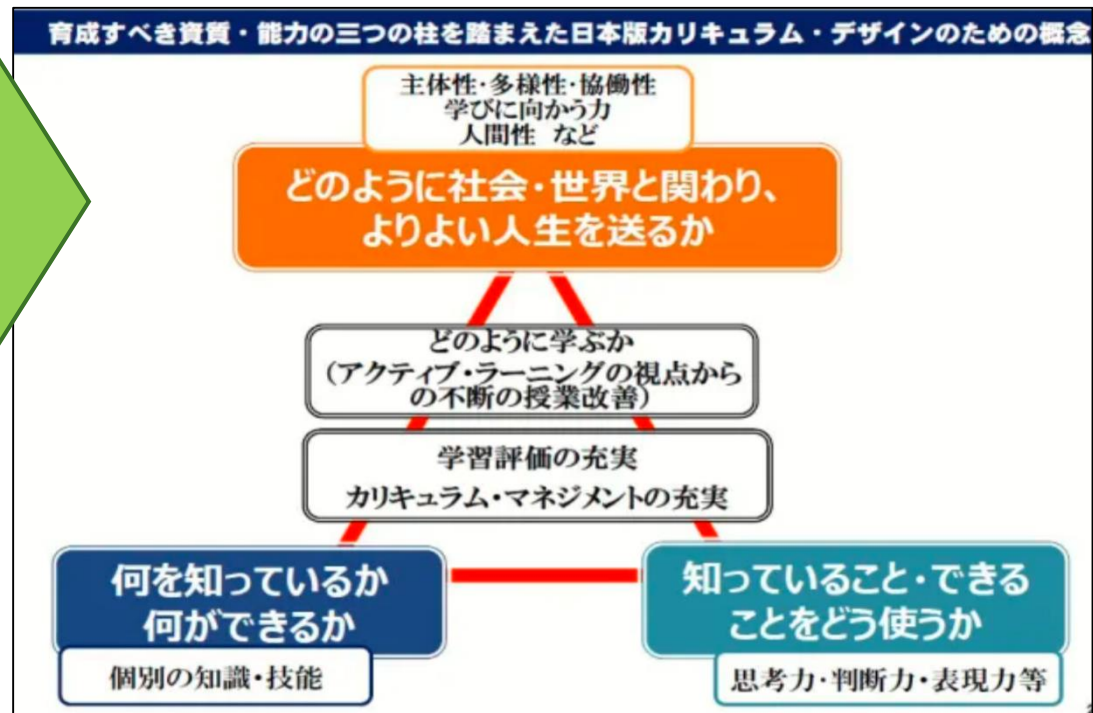
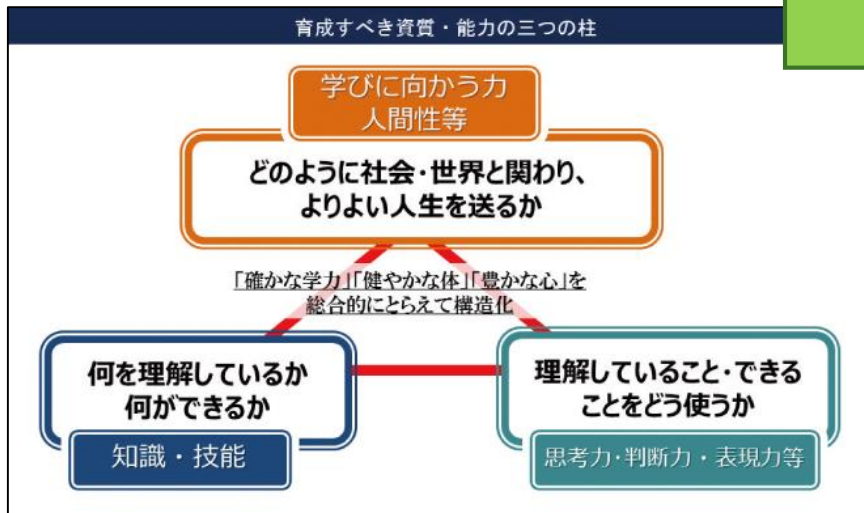
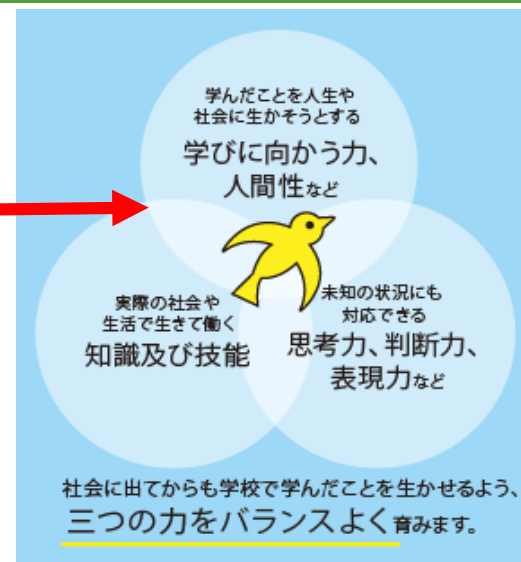
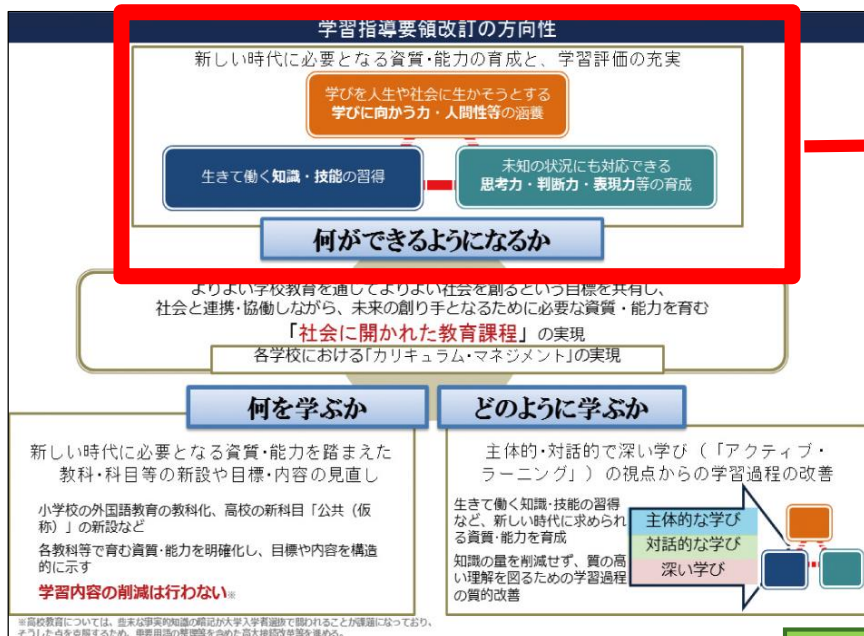
- ・学習指導要領の実施

＊高等部については、令和4年度より年次進行

資質・能力の3つの柱

- ・新しい時代に必要となる
資質・能力の育成
- ・**学習評価**の充実

＊小学部、中学部に関しては、新学習指導要領の
着実な実施からより良い実施への移行期である。



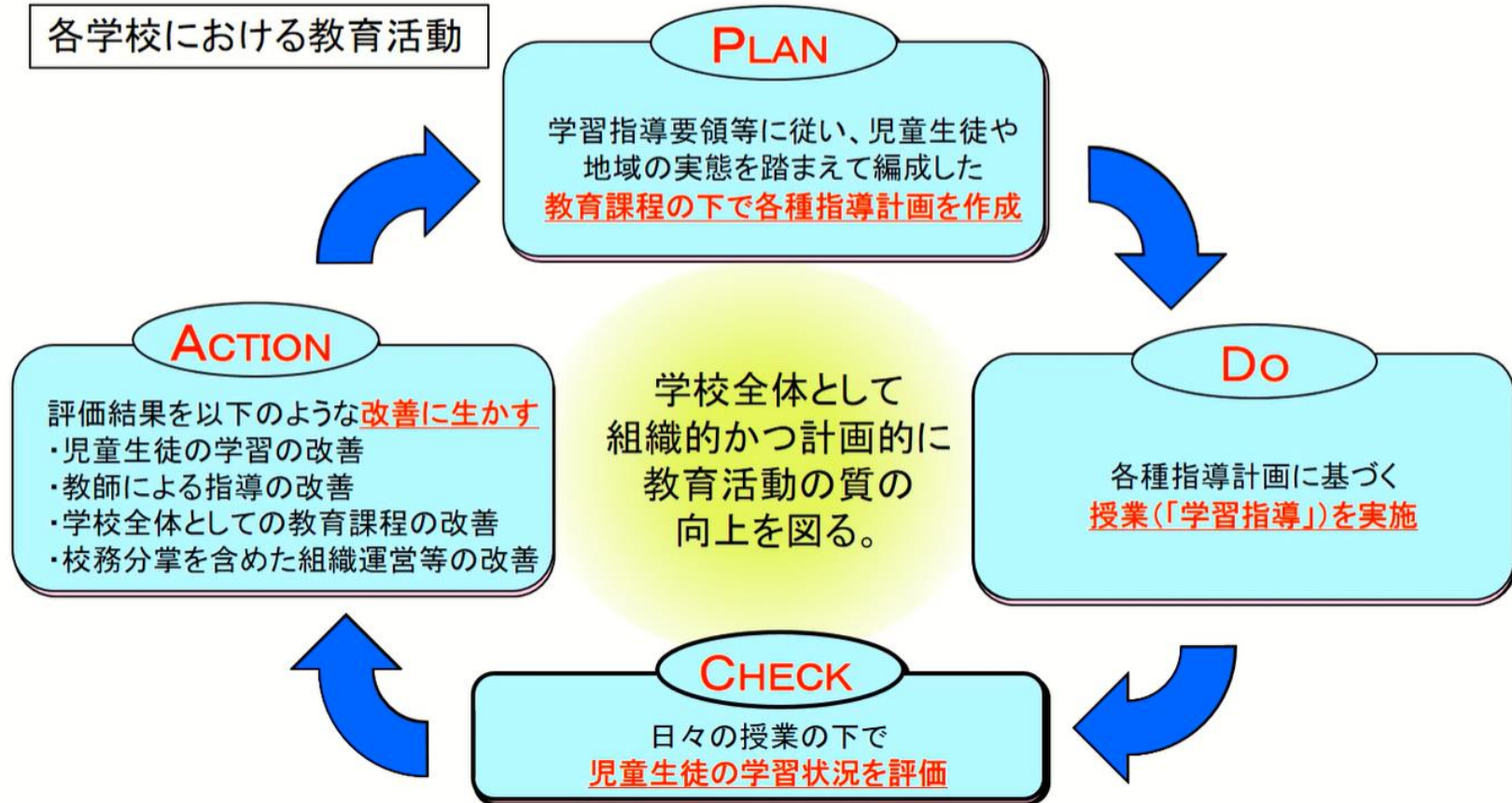
*平成27年 教育課程企画特別部会における論点整理について

カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価



「学習指導」はもちろんのこと「学習評価」も学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っている。

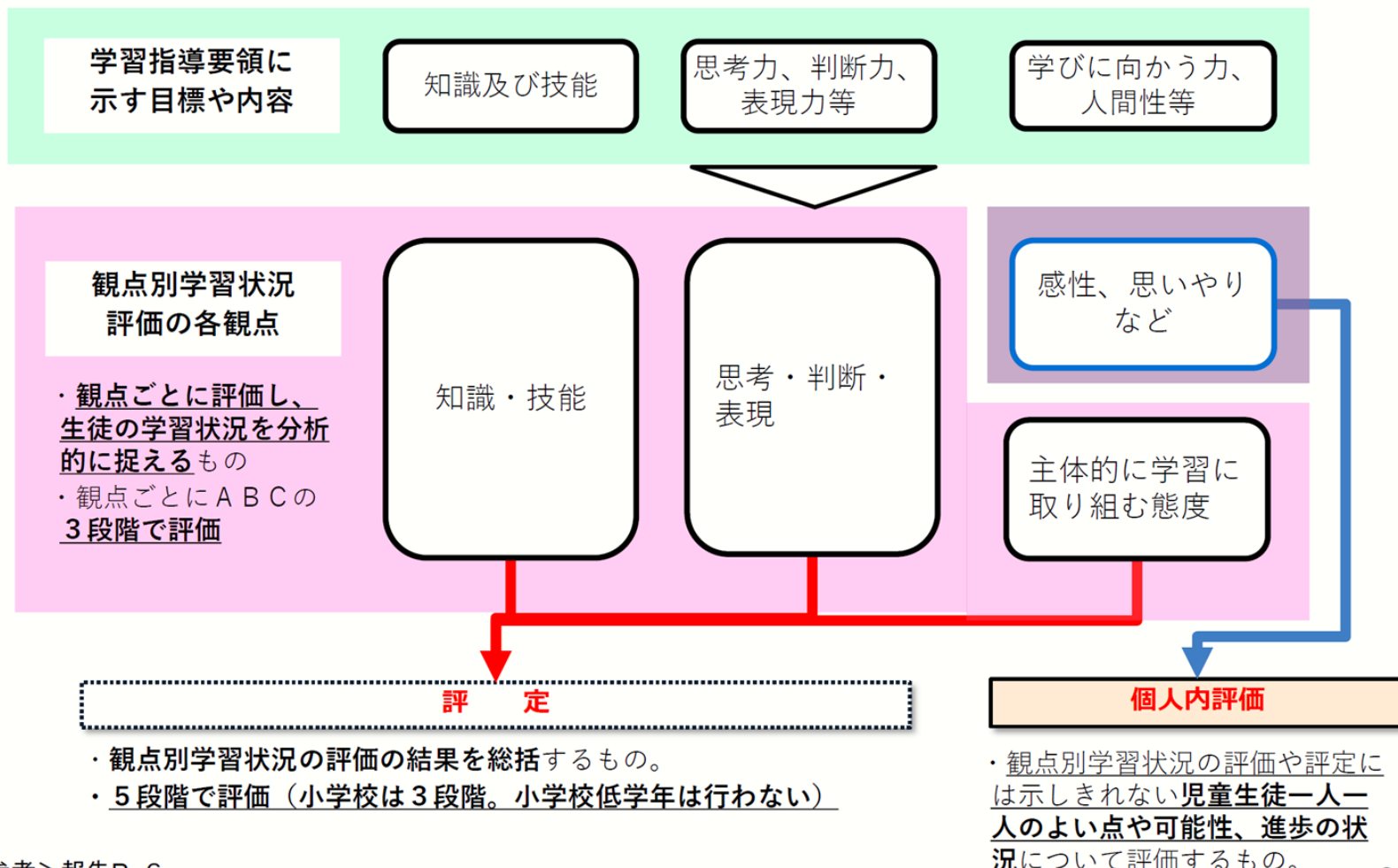
各学校における教育活動



各教科における評価の基本構造



- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



指導と評価の一体化の必要性の明確化



学習指導要領の総則において指導と評価の一体化の必要性が明確化された。

○学校教育法施行規則(抄)

第二十四条

校長は、その学校に在学する児童等の**指導要録**(学校教育法施行令第三十一条に規定する児童等の学習及び健康の状況を記録した書類の原本をいう。以下同じ。)を作成しなければならない。

第五十七条

小学校において、各学年の課程の修了又は卒業を認めるに当たっては、児童の平素の成績を評価して、これを定めなければならない。

※中学校、高等学校、特別支援学校についても同様に規定。

指導要録の作成や
成績の評価について規定

○平成29年改訂特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 第1章総則

第4節 教育課程の実施と学習評価

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

(1) 第1章第2節の3の(1)から(3)までに示すこと(引用注:資質・能力の3つの柱の育成)が偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。(略)

2 学習評価の充実

(1) 児童又は生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。

指導と評価の一体化の
必要性を明確化

令和4年度の研究に関して

●令和4年度の研究内容

- 学習指導要領や文献を基に「目標設定」「指導と評価の一体化」「学習評価」に関する基礎研究を行う。
- 基礎研究を基に国語、算数／数学、自立活動の授業づくりと授業実践を行う。

●学習評価

- 学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものである。
- 児童生徒に「どういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図る。
- 児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするために行う。

●学習評価と教師の指導改善

教師の指導改善に
つながっているのだろうか？

●学習評価と児童生徒の学習改善

児童生徒の学習改善に
つながっているのだろうか？

児童生徒の実態把握に関して

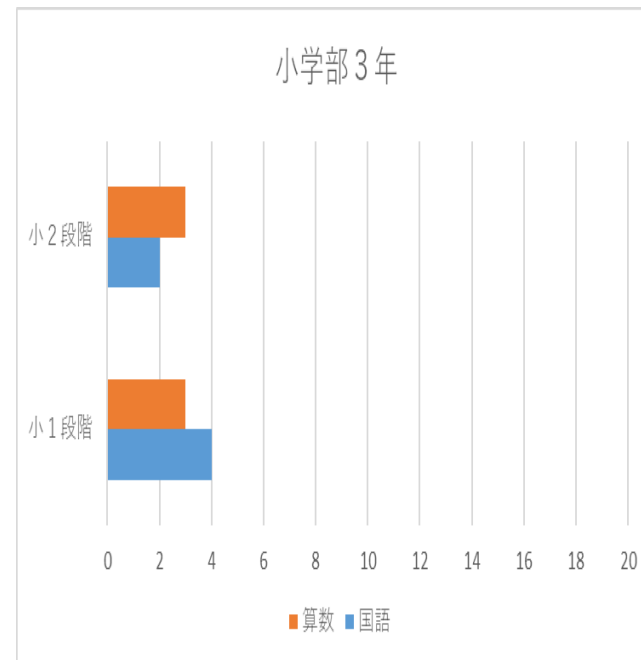
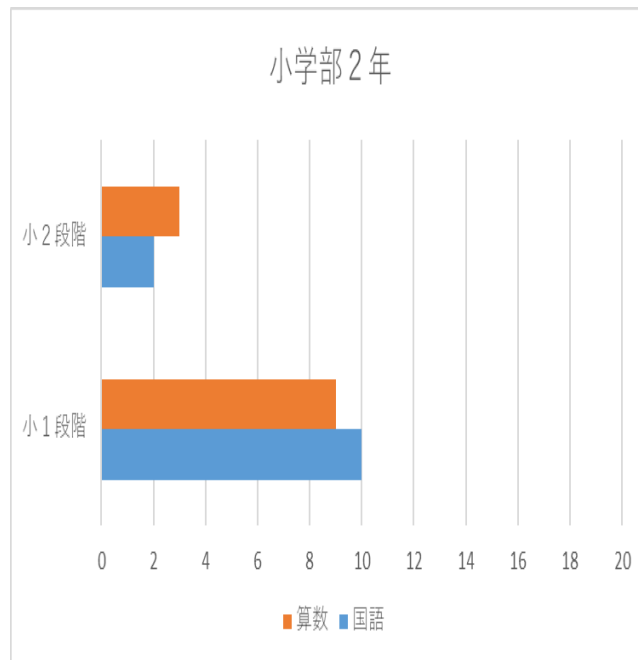
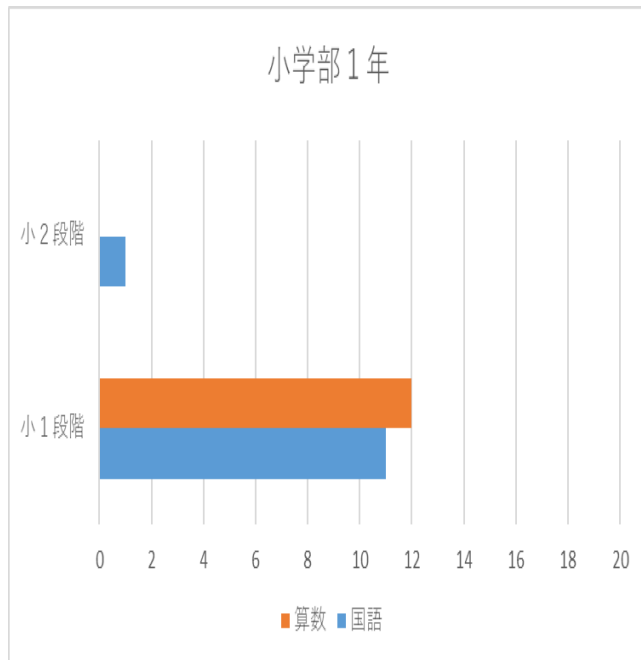
●国語、算数／数学の実態把握

① 『学習指導要領』

- ・ 段階の把握
- ・ 個別の指導計画
- ・ 学部、学年ごとに集計

*小4、小5、小6、中1、中2、高3は
Ⅱコースを含む。

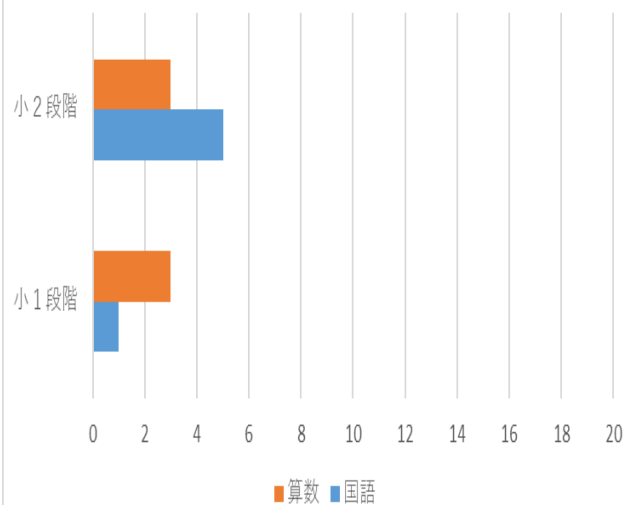
●小学部低学年



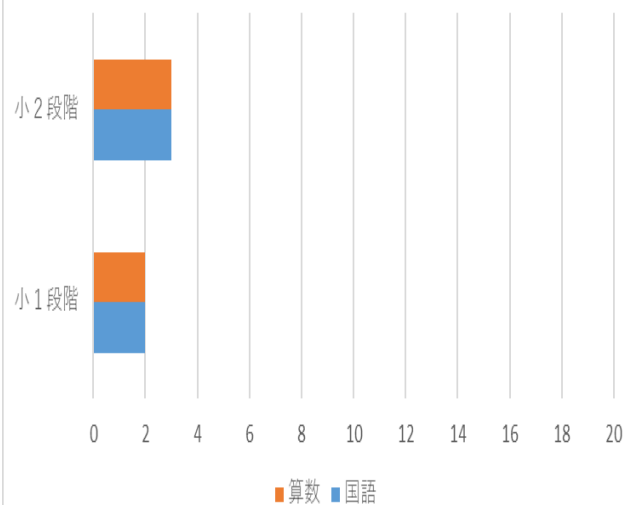
※横軸は人数

●小学部高学年

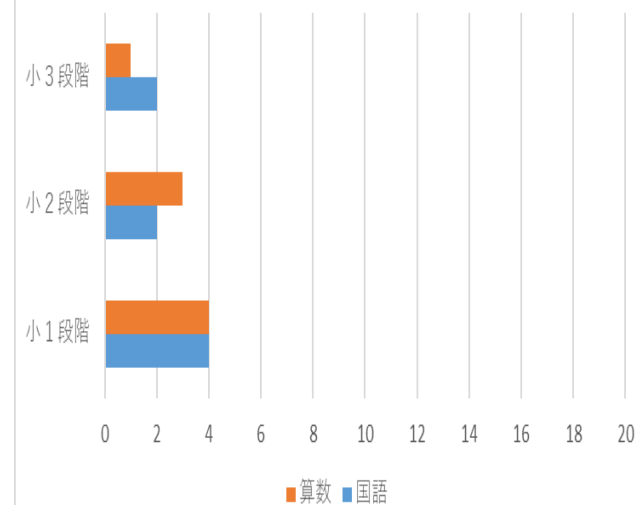
小学部4年



小学部5年

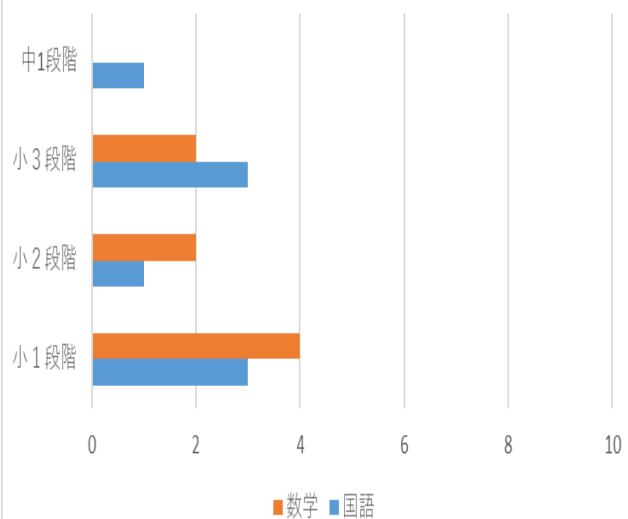


小学部6年

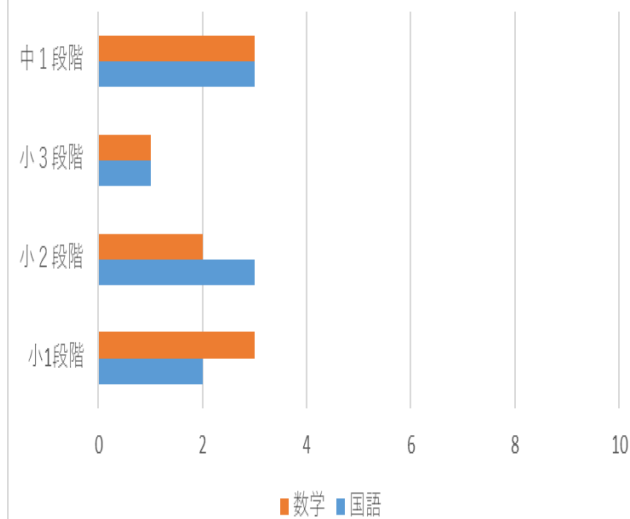


● 中学部

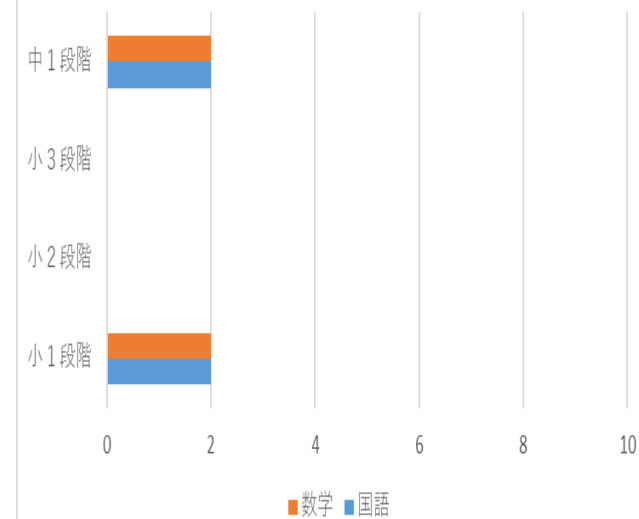
中学部 1年



中学部 2年

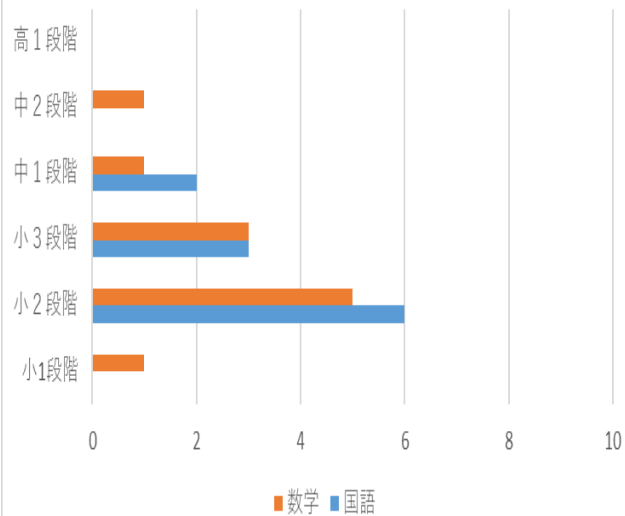


中学部 3年

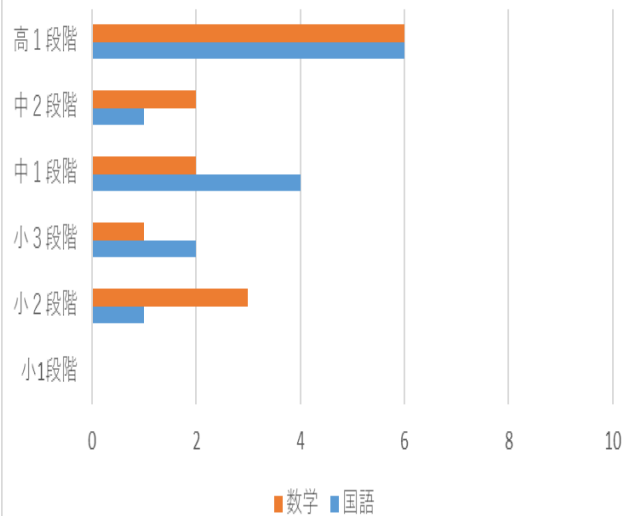


● 高等部

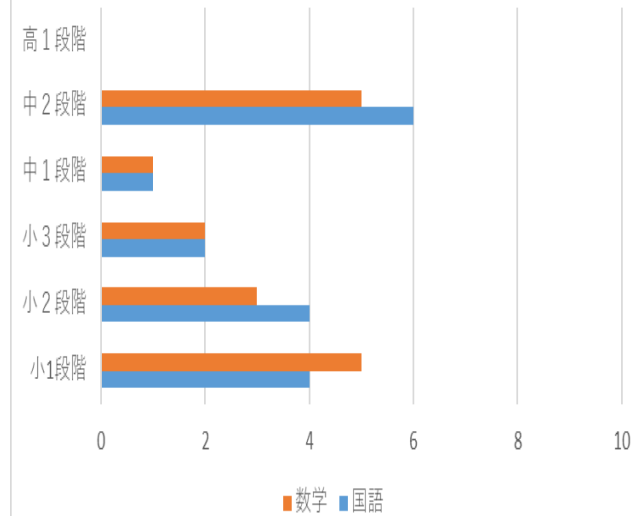
高等部1年



高等部2年



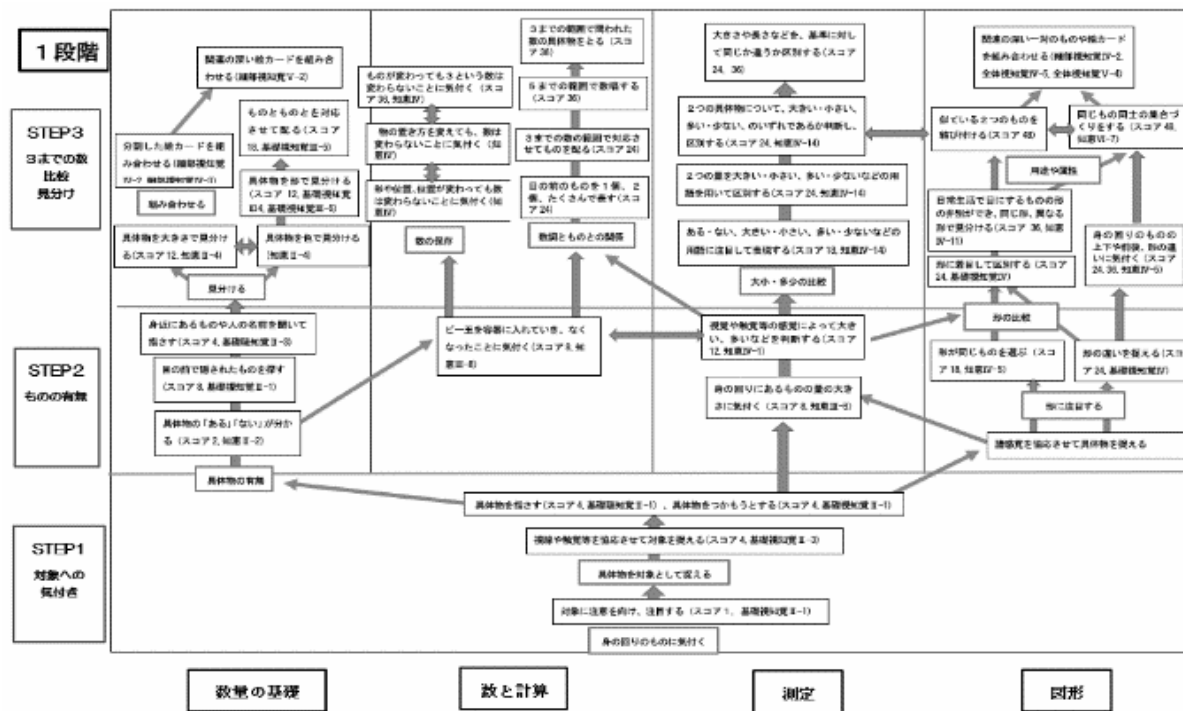
高等部3年



●国語、算数／数学の実態把握

② 「ラーニング・マップ」 ※1

- ・ 担任間で意見交換しながら客観的に実態を把握する。



※1 『「ラーニング・マップ」から学びを創り出そう』 ジアース教育新社

● 「授業実践シート」の作成

- 指導と評価の一体化を目指す。
- 国語、算数・数学、ことばかず（自立活動）の指導の実際について、学部、学年及び学級で情報共有する。
- 授業実践を通して、目標や指導内容、手立てに関する意見交換を行う。
 - * 教師の授業改善を図る。
 - * 児童生徒の学習改善を図る。